

大学

企画課管理用 管 ー F ー 2

推進主体	学生センター
責任者	学生センター所長

分類	実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
管 ー F	②多様な相談・要望に対応できる学生支援体制の充実及び機能強化	令和 4 年度	令和 9 年度	あり(予定)

① 目的・内容

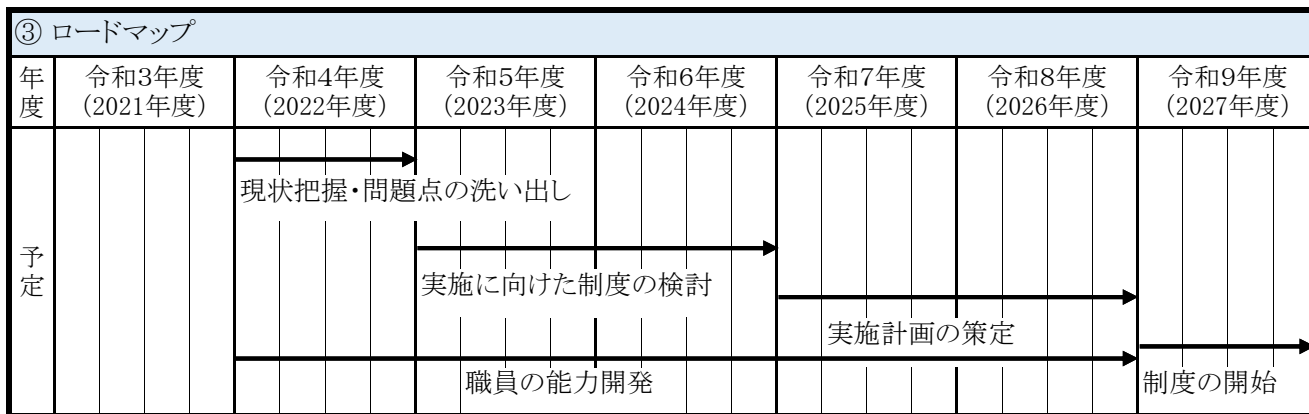
**【目的】**社会や学生のニーズを適切に把握し、学生からの多様な相談・要望について、大学全体で一体的かつ総合的に対応できる学生支援体制の充実及び機能強化を図る。

**【内容】**I) 相談、要望内容の現状把握と既存組織の見直し  
学生センター(教務課・学生課・学生相談室)及びラーニング・サポートセンターの現体制及び支援方法について問題点の洗い出しを行うとともに、より学生のニーズに対応できる支援体制(組織改編を視野に)のあり方を検討する。

II) 多様化する学生相談や要望に対し適切に対応できる職員の能力開発  
近年、専門知識が必要な学生相談が増加し学生相談室と連携し支援を行っているが、例えば学修のみならず経済状況に影響するケースも発生している。組織改編による支援体制整備だけではなく、担当職員が専門的かつ横断性のある知識を有することで総合的な支援を行うことのできる体制づくりも目指す。

② 到達目標(数値目標/定性目標) **※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。**

学生のニーズの把握に努め、多様な相談・要望に対応する新部署の設置(「学修支援・教育開発課(仮称)」)を検討する。



④ 数値目標の詳細 **※設定できない計画については記載不要。**

指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							
2	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							

(様式2) 実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
令和4年度 (2022年度)	学生の相談・要望の実態調査及び学生センター、ラーニング・サポートセンターの支援方法について、問題点の洗い出しを行う。	<p>I) 学生センター、ラーニング・サポートセンターの現状と問題点について洗い出しを進めている。</p> <p>II) 学生相談室の相談員を講師として、学生センター職員を対象に、発達障害のある学生の支援について基本的な知識や支援方法等について、研修会を実施した。</p> <p>★進捗段階:「計画立案」</p>
令和5年度 (2023年度)	<p>I) 引き続き、現状把握及び問題点の洗い出しを行うとともに、学生センター三課の連携を強め、より円滑に学生の要望に応えることのできる支援体制について検討する。</p> <p>II) 職員の能力開発のための研修を継続して実施する。</p>	<p>I) ラーニング・サポートセンターは、令和5年度に東1号館に移転したことにより、来訪者が増加した。ラーニング・サポートセンター来訪者の利用状況を基に、今後のサポート内容について検討を行った。</p> <p>II) 令和4年度に引き続き、職員能力開発のための「学生支援研修会」を、学生相談室の相談員を講師として大学職員(法人・各学校の職員も参加)対象に実施した。令和4年度に実施した研修会「大学生に対応するためのメンタルヘルスの基礎知識」をもとに、事例の検証・演習を行うとともに、トラブル対応をした職員のメンタルヘルスクエアについて研修を行った。</p> <p>★進捗段階:「実施展開」</p>
令和6年度 (2024年度)	<p>I) ラーニング・サポートセンターの利用者を増やす対策を検討する。また、トラブルを抱えた学生への対応を円滑に行うことができるよう、守秘義務・個人情報保護に配慮した上で、学生センター三課の連絡体制・支援体制について検討する。</p> <p>II) 職員の能力開発のための研修を継続して実施する。</p>	<p>I) ラーニング・サポートセンター(LSC)の利用者を増やす対策として以下を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・従前より実施していた大学図書館の「データベースセミナー」にLSCのレポート指導法を組み合わせ「最強のレポートセミナー」を開催した。大学図書館との連携は初めての試みで、LSCが、図書館内にあること、大学のオフィシャルな組織であること、誰でも勉強について相談できる場所であることをアピールした。</li> <li>・学年、時期ごとの相談内容から需要を分析し、それぞれのタイミングでヒットする動画セミナーをG-Portで配信した。</li> </ul> <p>学生センター三課の連絡体制・支援体制については、学生相談室の守秘義務の観点から連携が難しいところもあるが、必要に応じて情報共有を行い相互にフォローする体制とした。</p> <p>II) 令和4・5年度に引き続き、職員能力開発のための「学生支援研修会」を、学生相談室の相談員を講師として、大学職員(法人・各学校職員も参加)対象に実施した。部署間の連携によってトラブル解決に繋がる事例の検証・演習を行うとともに、学生への危機介入・緊急支援について研修を行った。</p> <p>★進捗段階「展開完了」</p>
令和7年度 (2025年度)	<p>I) ラーニング・サポートセンターの利用者を増やす対策を引き続き検討する。</p> <p>II) 職員の能力開発のための研修を継続して実施する。</p>	<p>I) ラーニング・サポートセンター(LSC)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度に引き続き、大学図書館と連携し、「レポート・卒論セミナー」を計6回開催した。</li> <li>・G-Portで、ノートテイク、レポート作成、プレゼンテーション(発表)の方法について、動画セミナーを配信した。</li> <li>・大学、女子大統合を見越し、大学ラーニング・サポートセンターと女子大学ラーニングサポートルームの相互で両大学生の利用及びセミナー参加を可能とした。</li> </ul> <p>II) 職員能力開発研修について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度までに学生相談室相談員を講師として、『大学生に対応するためのメンタルヘルスの基礎知識』、『事例をとおして学生対応を考える』、『学内連携による危機対応の実際』の3回シリーズで学生支援研修会を実施した。本研修は、職員対象に実施したため、今年度は教員を対象に含めた研修会実施を企画した。</li> </ul> <p>★進捗段階「展開完了」</p>
令和8年度 (2026年度)	<p>I) 目白キャンパスのラーニングサポートセンターは、修士以上・専攻分野指定・学生指導経験の条件をもって直接雇用を行っており、アカデミックな内容も対応できる体制を整えているが、人材確保が課題となっている。一方で戸山キャンパスのラーニングサポートルームは外部委託で人材確保は問題ないが、高度なアカデミック対応を想定していない体制となっている。双方の課題を整理するとともに、両キャンパスの学生が利用しやすい体制・対策を検討する。</p> <p>II) 教職員対象に、「学生支援研修会」を継続して実施する。</p>	